

---

[成果情報名] 株枯病抵抗性「キバル」台イチジク苗の早期育苗技術

[要約] 株枯病対策として有効な台木地上部長 25cm の「キバル」台イチジク苗は、接ぎ挿しに際して樹体をパラフィン処理することで、1年で接ぎ木苗を生産できる。本育苗方法は「とよみつひめ」等県内主要3品種に適用できる。

[キーワード] キバル、株枯病抵抗性、接ぎ挿し、パラフィン

[担当部署] 苗木・花き部 苗木花木チーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象作物] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

---

[背景・ねらい]

イチジクでは株枯病にほ場抵抗性を持ち、連作ほ場での樹勢低下が少ない台木品種として「キバル」が育成された。「キバル」台イチジク苗の接ぎ木苗生産では、台木養成期間が必要であり、従来の挿し木苗に比べて長い育苗期間を要する。そこで、接ぎ木と挿し木を同時に行う接ぎ挿し法を用いて、「キバル」台イチジク苗の早期育苗技術を開発する。

(要望機関名：園芸振興課(H23))

[成果の内容・特徴]

1. 株枯病対策として有効な台木地上部長 25cm の接ぎ挿し苗は、苗地上部へのパラフィン処理することで、活着率が高まり、活着後の生育が優れ、1年で接ぎ木苗の生産ができる。(図1、表1、一部データ略)。
2. 台木地上部長 25cm の接ぎ挿し苗は、土壌のマルチ処理により活着率が高くなり、活着後の生育も優れる(表1)。
3. 本育苗方法で育成した「とよみつひめ」、「蓬萊柿」および「柘井ドーフィン」の苗は、いずれの品種も活着や生育が良好である(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. イチジク「キバル」台接ぎ挿し苗(台木地上部長25cm)の育苗技術として活用できる。
2. 挿し木後は適宜かん水して土壌を適湿に保つ。

[具体的データ]

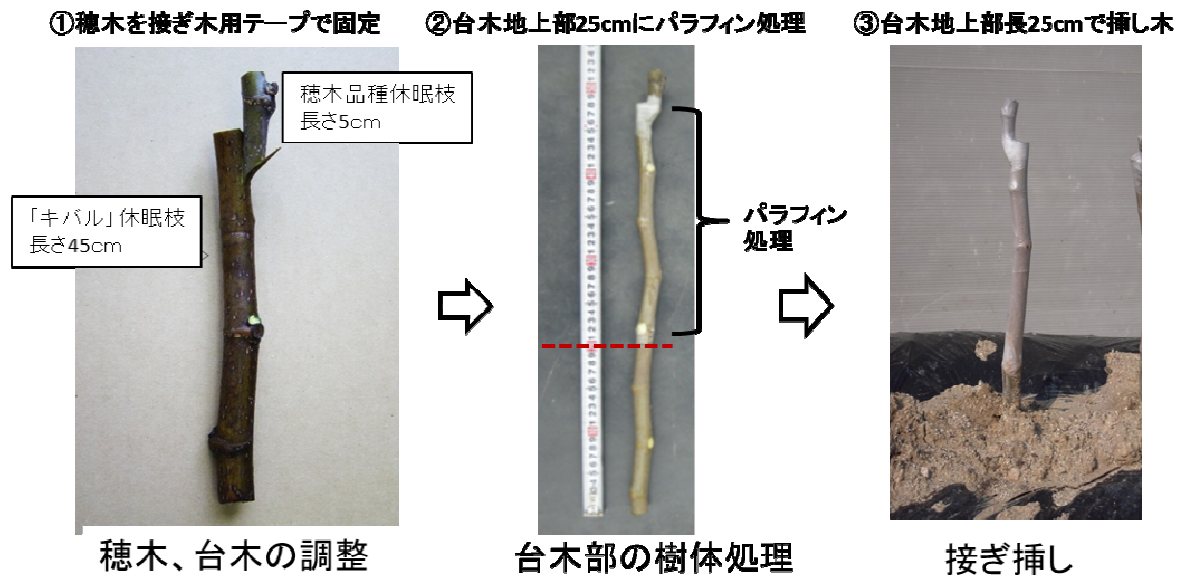


図1 「キバル」台イチジク苗の接ぎ挿しの方法

表1 「キバル」台接ぎ挿し苗の土壤マルチ、樹体処理の有無と生育(平成25年)

樹体処理	土壤 マルチ	活着率 (%)	樹高 (cm)	基部径 (mm)	乾物重 (g)		商品化率 (%)
					地上部	地下部	
パラフィン	マルチ	89	197	19.4	237	120	89
	無処理	67	176	18.8	192	107	67
無処理	マルチ	78	187	19.2	256	123	78
	無処理	44	146	16.3	126	80	44

- 注) 1. 穂木品種は「とよみつひめ」、接ぎ挿し日は4月20日  
 2. 樹体処理は、台木地上部25cmをパラフィン被覆処理(80~85℃で溶解したパラフィンで被覆)  
 3. 土壤マルチは、挿し木時に畝を黒ポリフィルムでマルチ  
 4. 接ぎ挿しは、台木長45cm、穂木長5cmとし、台木部を地上に25cm露出して挿し木  
 5. 活着率は8月、樹高、基部径、商品化率は11月、乾物重は12月に調査

表2 「キバル」台接ぎ挿し苗の穂木品種別生育(平成24年)

穂木品種	活着率 (%)	樹高 (cm)	基部径 (mm)	乾物重 (g)		商品化率 (%)
				地下部	地上部	
とよみつひめ	93	218	21.1	140	272	87
蓬萊柿	80	206	20.5	125	258	80
柘井ドーフィン	93	221	21.4	129	301	93

- 注) 1. 接ぎ挿し日は4月19日  
 2. 台木長45cm、穂木長5cmで、台木地上部(25cm)にはパラフィン被覆処理

[その他]

研究課題名: 「キバル」台イチジク苗木の早期育苗技術の開発

予算区分: 経常

研究期間: 平成25年度(平成22~25年度)

研究担当者: 牛島孝策、村本晃司、草野成夫

発表論文等: 福岡農総試研報第32号、園芸学会平成23年秋季・平成25年春季大会